

年刊

アタコム夏合宿

13

2025年

始動!

ATACOM 13EST

『未来へ繋ぐ』というテーマから、過去・現在・未来の繋がりの意味を込めて作成。過去のロゴの要素を今年の活動テーマである「ATACOM 13EST」の「13」の文字の中に取り入れ、「輝く未来」の花言葉をもつキリンの花で結いだ。



一式材料ハ「空キ缶」。

ATACOM メンバーや地域の人の協力で、多くの空き缶が集まった。缶には穴を開け、針金を通し、いくつか連ねたものを何百個も作り、さらにそれらを骨組みに連ねていき徐々に巨大なラジオを作っていく。そして、ラジオの後ろには、ガレージ端から端まで続く巨大な缶のカーテンが、その周囲には、缶のランタンが天上から吊り下げられている。このランタンは、ATACOM メンバーだけでなく、地域の子ども達も一丸となって作り上げたものだ。『夏合宿』が終われば、子ども達の手元に自分で作り上げたランタンが運ばれる。地域の空で大学生と協力し、自分の手で作ったものが輝きを放ち、それが今、自らの手元に残っている。この出来事が、彼らの夏の思い出の一つと刻まれることを我々は願う。



ツクリモノ「ラジオ」

2025年ハ、
日本デ、ラジオ放送が始マッテ
100周年——。

オ尋ネ者出沒!
挑戦者求ム!

8/17 ▶ 25

アタコム夏合宿

丹波・氷上で開催!





はじめに

この度は ATACOM BOOK 13 をお手にとりいただき、ありがとうございます。

去年一年間、主軸となって活動を引き継いでくれた先輩方が卒業し、新体制で始まった十三年目。新しく入ってくれた仲間たちと共に過去最高の一年にしようと、心と体の形が似ていることから、

「ATACOM 13EST (BEST)」

をテーマにおいて活動を進めてまいりました。

ツクリモノ作成から愛宕祭まで、すべてにおいて地域の方々のご協力のもとに成功させることができました。またその過程は、地域の方との交流を深め、丹波の文化や歴史や魅力についてさらに知れる機会でもありました。

この貴重で有難い時間を振り返り、BOOKに残します。
ATACOM の BEST な一年を、この一冊で覗き見てみてください。





目次

ATACOM とは	1
愛宕祭・地域の造り物	2
一年間のスケジュール	3

議論白熱！審査会	4
-----------------	---

2025 年夏、丹波——9 日間の奮闘

合宿特集	
ツクリモノ製作編	7
日常編	11
愛宕祭編	15

メンバー紹介	23
---------------	----

活動紹介	27
-------------	----

謝辞	29
----	----





ATACOM

愛宕祭りに学生が参加することで、地域に新しい風と元気を送り込もうというプロジェクトである。

今年のテーマ

アタコム ベスト ATACOM 13EST

・全ての活動において学生一人ひとりが最大限に取り組み、今までで一番頑張ったと胸を張れる一年にしていこう。

・ATACOM が在ることでも丹波をもっと心地良い場所に、もっと好きに、まちにしていこう。

これらの思いをのせて、13年目の「13」と「B」を掛け合わせて命名した。

今年度は新たに多くのメンバーが加入し、総勢30人を超える体制となった。初めて愛宕祭やATACOMの活動に参加するメンバーも多く、準備や運営では戸惑いや苦労も見られたが、互いに協力し合いながら試行錯誤を重ね、全員で協力しながら、困難を乗り越える力が着実に育まれた一年となった。



ツクリモノテーマ

毎年多くの人で賑わう愛宕祭だが、近年は造り物の出展数が減少している。そこでATACOMのツクリモノを通じ、造り物づくりへの関心を高め、伝統を未来へ繋ぐきっかけとなる作品を目指す。



▲過去のツクリモノの一部

「シャツロ」

「未来に繋ぐ」というツクリモノテーマから過去→現在→未来のつながりの意味を込めて制作した。



過去のロゴの要素を今年の活動テーマである「ATACOMBEST」の「B」の中に取り入れ、「輝く未来」という意味を持つキララの花で紡いだ。



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

愛宕祭について

愛宕祭とは、毎年八月二十四日に開催され、江戸中期より三百五十年余り続く伝統ある祭りである。

二十三日は、鎮火と五穀豊穡と家内安全を祈願し、伝統の造り物が奉納され、二十四日には夜店と花火大会が開催される。

愛宕祭の中でも、町内会ごとに趣向を凝らし、技術を競い合い製作する「造り物」は、愛宕祭の重要な神事であり、祭りの醍醐味のひとつである。造り物は、祝儀物、金物、陶器などの日用品を材料として、人物や建物など世相を表現した作品が、町内数力所で展示される。

造り物は、丹波市観光百選の中で、伝統行事・工芸品部門に認定されている。



地域の造り物

ラジオが初めて地上波で放送された一九二五年から、今年で百周年を迎えた。そのことを記念して、ATACOMでは「ラジオ百年間の旅」をテーマに、一式材料を空き缶として大きなラジオを作成した。

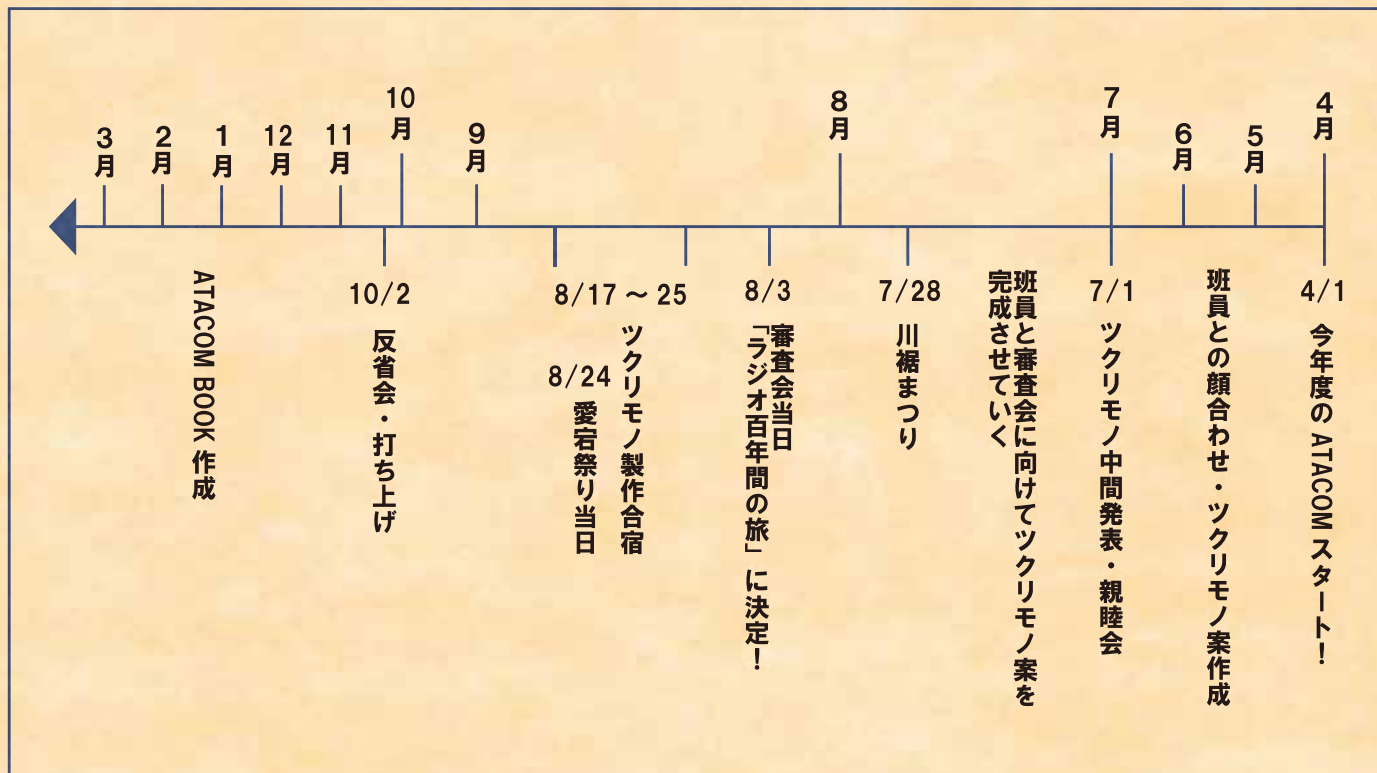
このように、二〇二五年にちなんだ出来事や行事、人物や建物などの世相を日用品を一式材料として表現する。今年は日本で二〇年振りに万博が開催されたことから、これをテーマとする造り物が多かった。

合計で七つ、そのどれもが目を惹く素敵な作品だった。





一年間のスケジュール



今年も多く多くの活動を行った。四月頭に今年度の活動がスタートし、幹部総入れ替えが行われ、新しいメンバーも多く入ってきてくれた。

七月までの期間では、くじ引きで決まった班メンバーとの顔合わせを行ったうえで、定期的に会議を開き、中間発表に向けてツクリモノ案を考へていった。また同時に、愛宕祭で縁日や出し物、遊びを自分たちで考へ、どのようなものかと盛り上がるか、喜んでもらえるかを第一に考え話し合いを重ねていった。

七月一日にはツクリモノ案の中間発表があり、他の班の状況と情報を共有する会となった。またその後に親睦会を開催し、新メンバーとの交流も深めることができた。

その後も最終審査会に向けて班ごとに最終調整を行うため会議を続ける。

七月二十八日には丹波市で川裾祭が開催され、地域の方々と交流・出し物をしました。

ついに来る最終審査会では、豪華な審査員の方々の前で各班発表を行った。最終的に最も各得票数が多かった、「ラジオ」をコンセプトとしたツクリモノの案に決定した。

そしてついに、八泊九日の丹波での泊まり込みツクリモノ製作が合宿が始まった。毎日炎天下の中ガレッジと交流館を行き来する日々は、ATACOMではもう慣れたものだが、初めてのメンバーからすると大変な光景だったかもしれない。

来る八月二十四日は快晴となり、今年も最高の祭日和の中愛宕祭が開催された。

その後秋学期がスタートし、合宿の反省会を行った後、この ATACOM BOOK の作成に取り掛かっていくというスケジュールとなった。

その他にも、月一〜二回ほど CHATTA BASE の改修作業を行ったり、丹波市で地域の方々と交流しながらモノをつくるイベントを行ったりと、愛宕祭に関わることで以外の活動も行ってきた。

それでは、この一年間の活動で私たちが見た景色を、これから皆様にお届けしていこうと思います。



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

議論白熱！ 審査会

8月3日、ひかみ成松交流館で各班がこれまで考えてきたツクリモノの中で、どの提案を実現に向けて進めるかを決める審査会を行った。

江川先生や長町さん、ATACOMのOBOGの方や、造り物保存会会長など地域の方々にもご参加いただき、各班5分間のプレゼンを行った後、学生を含めた審査員、参加者全員で投票し、今年の作品テーマを決定しました。



審査会が終わった後は

BQ開催！

審査会を終えた後、メンバー同士の親睦を深めるため、屋外でバーベキューを行った。審査会では作品内容や展示構成について活発に意見が交わされ、緊張感のある時間が続いたが、その空気は会場を移して火起こしが始まると一転した。

炭火の上で焼かれる肉や野菜の香ばしい匂いが広がる中、メンバーは役割や学年の垣根を越えて談笑した。準備から片付けまでを協力して行う姿からは、団体としての結束の強さもうかがうことができた。日が傾くにつれ、焼き網を囲む輪は自然と大きくなり、食材を分け合う光景があちこちで見られた。食事が一段落した後には、夏の風物詩であるスイカ割りも行った。目隠しをした挑戦者が周囲の声を頼りに一歩ずつ進むたび、笑いや歓声が上ががり、見守る側も一体となって盛り上がった。見事にスイカが割れると、大きな拍手が沸き起こった。

真剣な議論を経た後のBQとスイカ割りは、メンバーの心をほぐし、次の制作へ向かう活力を生み出す場となった。ATACOMは、こうした交流の時間を大切にしながら、今後も団体としての活動を続けていく。





メンバー紹介

！ここで夏合宿とともに歩んだ精鋭たちを紹介しよう

○大学院2回生

まず初めに一番頼りになるこの2人から！
何を聞いても答えてくれる頼れるこの2人も今年の
愛宕祭りが最後になった。本当にお疲れさまでした。



△いながきさくら



△いわいなおや

○学部4回生

お次はこの5人！
会計やツクリモノなど各役職のトップに立ち、全体を
引っ張ってくれた。
彼ら彼女らも最後の愛宕祭りとなった。



△おおやまゆうき



△なかにしりょうじ



△いしぐろりさ



△こばやしゆうあ



△やまもとたいよう



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

○学部3回生

続いてこの9人！
上回生と下回生を技術面でもコミュニケーション面でもつないでくれた橋渡し役。



△たむらるきあ



△おおがきあゆみ



△とだれんたろう



△わたなべりょう



△おのきょうか



△やぶのしゅくと



△いいぐさまゆい



△よしながふみや



△きむらみさき



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



○学部2回生

そして次はこの13人だ！
彼らの中には去年から参加していた者も多く、去年の経験と反省を活かし夏合宿を盛り上げた。



△たかぎせり



△どいあゆみ



△かめいもえか



△やまむらかいと



△おおしまけいすけ



△さとうそういちろう



△いちのつぼゆうと



△おおたにみずほ



△かもうともひろ



△やまさきはる



△はんだかずさ



△かりやなつこ



△さえきひなみ



○学部1回生

最後は、この12人だ！
今年初めての夏合宿で不安や戸惑いもあった
だろうが、実力以上のものを見せてくれた。



△たむらとくきよ



△なかじまそうたろう

△まなこりょういち

△にしゃまとしや



△さわだれいな



△おおしまさくや



△なかやましおり



△まつしたるな



△かとういおり



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



日ごろの活動

地域の方との交流

日ごろの活動では、改修作業のお手伝いに来ていただくなど、多くの場面でご協力をいただいている。また、合宿期間中においても、生活面やツクリモノ製作、企画などの活動面など、さまざまな場面で支えていただいた。

さらに、合宿初日と愛宕祭り一日目には、CHATTABASEにて交流会を実施した。長年丹波に関わってきた学生の卒業に際して感謝を伝えたり、ATACOMリーダーの誕生日を祝ったりするなど、濃厚で楽しい交流の時間となった。初めて地域の方とお話するメンバーもあり、非常によい機会となった。



お祭り出店

地域のお祭りにも参加し、地域交流と、お祭の賑わい発展に努めている。自分たちで作ったスマートボールや、スーパールールすくいを出店している。



CHATTABASE

地域有志の方々、
ATACOM 参加学生、佐治
倶楽部のスタッフで地域
の空き家について実践を
通して考えていくチーム。

- 1, チャレンジの拠点
- 2, 商いの拠点
- 3, 学生の拠点

の三本柱を指針にしなが
ら、地域全体の暮らしの暮
らしの環境がよくなること
を考えていく。



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

CHATTA BASE 改修の進捗

昨年より参加メンバーが大幅に増え、また、改修回数も増やしたことで、改修が見る見るうちに進んだ。昨年まで構造体むき出しだったCHATTA BASEも残りは、仕上や什器作成のみだ。空き家改修の終わりが見えてくると同時に、この場所の活用方法を具体的に考えている。CHATTAの指針に基づいて、まずは学生が商いにチャレンジした。ゆくゆくは地域の方のチャレンジの場になってほしいと考えている。

完成間近！



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



謝辞

八月二十四日 ATACOM 一同

関西大学プロジェクト ATACOM13にご協力いただいた皆様に感謝いたします。
このプロジェクトが丹波及び中央地区のまちづくりに少しばかりお役に立てれば幸いに思います。
今後とも引き続き、暖かい支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

主催ー関西大学 関西大学・丹波市連携事業推進協議会

共催ー丹波市役所 成松造り物保存会 愛宕祭り実行委員会 中央地区自治振興会

CAC（中央地区アクティブサークル、NPO法人佐治倶楽部）

SPECIAL THANKS

審査委員を引く受けてくださった 江川 名誉教授 長町さん（LEM空間工房）

造り物会場を貸して頂いた 土井さん

交流館を貸して頂いた 中央地区自治振興会・ひかみ成松交流館の皆さん

交流会を開催して下さった CACの皆さん

様々な形で協力して頂いた CHATTAの皆さん

盆踊りに協力して頂いた 上成松 一宮会の皆さん

盆踊り開催を了承して下さった 中央自治振興会会長 村上さん 成松連合区会長 足立さん

造り物保存会会長 萩野さん

ラジオ出演等で協力して頂いた 前川さんをはじめとするFM805たんばの皆様

空き缶を提供してくださった皆さん





大正時代



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



アタコムの縁日、 今年もオープン！

昨年に引き続き、スマートボールやスーパーボールすくい、ボディペイントなど定番の縁日企画を開催。今年はさらに、水あめやハイボール、レモネードの屋台も加わり、ラインナップがパワーアップした。会場は地域の子どもたちや家族を連れでにぎわいを見せ、終始あたたかな雰囲気にも包まれた。また、盆踊りでは、昨年よりもグレイドアップしたやぐらを中心に、参加者みんなが輪になって踊り、夜の祭りをいっそう盛り上げた。学生たちは地域の人々の屋台もお手伝いしながら、自然に交流の輪を広げ、地元と学生が一緒になって作る温かい時間が生まれた。



屋台

学生たちが手がけた屋台では、水あめの個数が決まる手作りルーレットが登場。子どもたちはルーレットが回るたびにドキドキしながら、水あめを楽しんでいた。さらに、ハイボールやレモネードの屋台も加わり、訪れた家族連れや地域の人々が学生と交流しながら祭りを満喫した。



番外編

アタコムの縁日に加え、地域の方々の屋台もお手伝い。学生たちはお手伝いしながら、訪れた人たちと自然に交流した。



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



スマートボール

毎年恒例企画になっているスマートボール。今年も例年と変わらない懐かしい楽しさで、子どもたちの笑顔が絶えない企画となった。ボールの動きを調査し、得点設定を調整することで、狙う楽しさと運の要素が絶妙に混ざり合う程よい難易度を追及した。友達同士で点数を競い合い、思わず歓声上がる光景こそ、この企画の醍醐味となった。



スーパーボールすくい

大玉と小玉、アヒルの形など変わり種のアイテムを混ぜ込み、狙いどころに個性が生まれ、短い時間でも盛り上がる構成となった。手に入れたスーパーボールをぶら下げた子どもたちが行き交い、その鮮やかな色が愛宕祭の景色の一部として溶け込んでいた。



ボディペイント

今年は学生の手作り巨大ガチャガチャに入ったボディペイントが登場。アタコムカラーで彩られたPOP STAR号は訪れた人々の視線を集めた。

POP STAR 号



◀製作中の様子



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



お尋ね者ゲーム

今回初開催の「お尋ね者ゲーム」

成松の町に潜んでいる六人のお尋ね者たちを探してスタンプを集めるゲームである。地域の子どもたちは、お尋ね者を見つけると走って駆け寄りスタンプを押してもらう。スタンプを三つ集めるとCHATAベースでお菓子と交換することができる。初開催であったが、子どもたちに大好評企画となった。



お尋ね者紹介

ピエロ (大島)



ツタンカーメン (田村)



河童 (佐藤)



ラジオ泥棒 (山崎)



相撲取り (山村)



恐竜 (戸田)



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



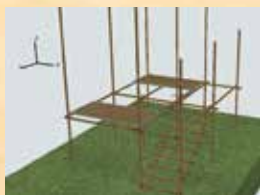
進化やぐら、登場。

今年は昨年よりさらにグレードアップしたやぐらが登場し、提灯の明かりが祭りの景色をいっそう華やかに彩っていた。やぐらのまわりでは、学生が地域の方々とともに輪になって盆踊りを楽しみ、世代を超えた交流の場となっていた。またやぐら上ではのど自慢大会も行われ、歌声と歓声が絶えず響き、終始にぎやかな雰囲気にもまれていた。



やぐらの組み立て

今年のやぐらは、昨年のものをさらに改良したアップデート版。新たに階段が設けられ、使い勝手も見えた目もレベルアップした。組み立ては決して楽ではなかったが、やぐらメンバー全員で力を合わせて作業を進めた。完成したやぐらは、想像以上の仕上がり。祭りの景色にしっかりと存在感を放つ、今年の自信作となった。



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



愛宕祭ハイライト



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100





完成の景色と私たち



ツクリモノ製作を終えて

愛宕祭へは今年で十三回目の参加となりました。今年もまた、これまでの流れを受け取りながらテーマを決定するところからスタートしました。構想がまとまりきらなかったり、材料の確保が難航し、ゴールがまったく見えない時もありました。それでも、みんなで手を動かし、試して、やり直して、その繰り返しの中で少しずつ前に進んでいきました。気づけばメンバー同士の会話が増え、制作のスピードも少しずつ上がり、作品の輪郭がすこしずつ立ち上がっていく過程は、合宿ならではの醍醐味だったと思います。

制作の途中では、毎年のことながら地域の方々がたくさん協力していただきました。材料を分けてくださったたり、差し入れをいただいたり、作業スペースで声をかけてくださったたり…。私たちがこの活動を続けていけるのは、そうした地域のあたたかい応援があるからだということを、今年も改めて実感しました。

来年の合宿でも今年の学びと経験を生かしながら、さらに良いものを作れるように頑張りたいです。ここで終わりではなく、また次の一歩につながっていくような活動にしていきたいと思っています。



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



FM 88 90 92 95 98 101 104 106 108

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100